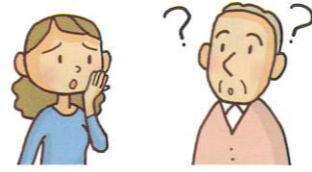


チェックしましょう 認知症が疑われるサイン

以下のチェックリストを参考に「認知症かもしれない」というサインに早めに気づき、地域包括支援センターなどに相談しましょう。

認知症による変化は、本人よりも周囲の人が気づきやすいことも多いので、身近な家族などが一緒にチェックしましょう。



- | | |
|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 直前にしたことや話したことを忘れてしまうようになった。 | <input checked="" type="checkbox"/> おしゃれや清潔感など身だしなみに気がつかなくなった。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 同じことを何度も言ったり、聞いたり、したりするようになった。 | <input checked="" type="checkbox"/> 今まで好きだった趣味などへの興味や関心がなくなった。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 置き忘れやしまい忘れが増えて、いつも探しものをしている。 | <input checked="" type="checkbox"/> 外出したり、人と会ったりするのをおっくうがり、嫌がるようになった。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 知っているはずの人やものの名前が出てこなくなった。 | <input checked="" type="checkbox"/> 今までできていた家事、計算、運転などのミスが多くなった。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> つじつまの合わない作り話をするようになった。 | <input checked="" type="checkbox"/> 日付や時間を間違えたり、慣れた道で迷ったりするようになった。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 以前に比べ、ささいなことで怒りっぽくなった。 | <input checked="" type="checkbox"/> 財布が見当たらないときなど、盗まれたと人を疑うようになった。 |

☆質問項目は認知症の初期症状の例です。とくに、家族など身近な人から見て複数の項目が当てはまる場合は、地域包括支援センターやかかりつけ医、専門の医療機関（神経内科、神経科、メモリークリニックなど）に相談してみましょう。

相談先

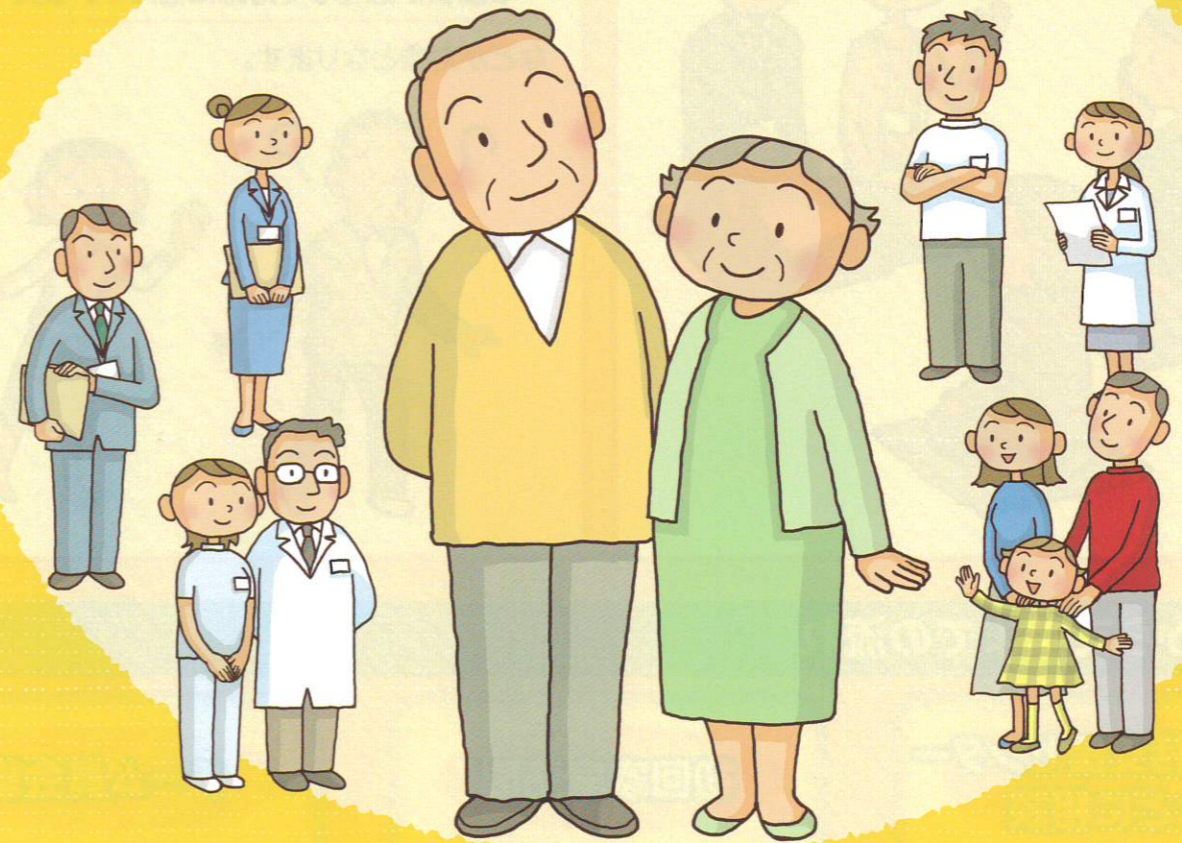
窓口	所在地	電話番号	FAX 番号
平地域包括支援センター	平字梅本 21 (市役所本庁舎内)	22-1174	22-7505
中央台サブセンター	中央台高久二丁目 11-2	38-5831	38-5841
小名浜地域包括支援センター	小名浜花畑町 34-2 (小名浜支所北分庁舎内)	53-4760	92-5202
泉サブセンター	泉町一丁目 8-9	84-9460	84-9461
勿来・田地域包括支援センター	錦町大島 1 (勿来支所内)	63-2140	62-2154
常磐・遠野地域包括支援センター	常磐湯本町吹谷 76-1 (常磐支所内)	43-2151	43-2205
内郷・好間・三和地域包括支援センター	内郷高坂町四方木田 191 (総合保健福祉センター 2F)	27-8660	27-8640
四倉・久之浜大久地域包括支援センター	四倉町字西四丁目 11-3 (四倉支所内)	32-2115	32-2258
小川・川前地域包括支援センター	小川町高萩字小路尻 19-10 (小川支所内)	83-1411	83-1329

事業についての問い合わせ先

担当課	所在地	電話番号	FAX 番号
保健福祉部 地域包括ケア推進課	内郷高坂町四方木田 191 (総合保健福祉センター 1F)	27-8575	27-8576

認知症の困りごと・心配ごとに対応

認知症 初期集中支援チーム をご存じですか？



認知症初期集中支援チームとは

認知症初期集中支援チームは、認知症の人や認知症の疑いのある人、その家族のもとに訪問して、認知症についての困りごとや心配ごとなどの相談に対応する、認知症の専門家たちによって構成されたチームです。

認知症は誰もがなる可能性のある病気であり、早めの対応が必要です。ひとりで抱え込まず、まずは地域包括支援センターなどにご相談ください。

初期集中支援 すばやく集中的なサポートで、認知症の困りごと・心配ごとを解決します

認知症初期集中支援チームって どんなことをするの？

認知症の人やその家族に対して、認知症かどうか診断したり、適切な医療サービスや介護サービスを紹介したりするために、チーム員が自宅に訪問して一定期間（おおむね6か月以内）集中的に支援します。

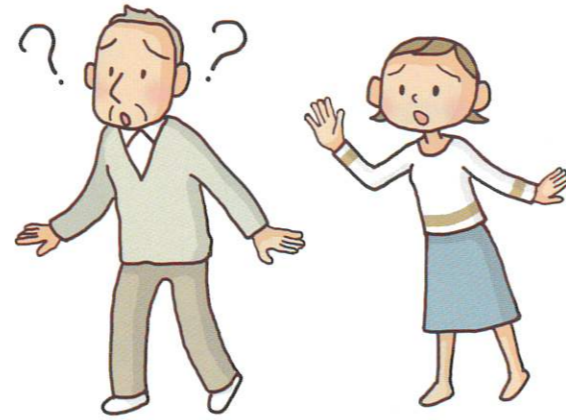


対象となる人は？

40歳以上の自宅で生活している認知症の人や認知症が疑われる人で、

- ◎認知症の診断を受けていない人や治療を中断している人
- ◎適切な医療サービスや介護サービスを受けていない人
- ◎医療サービスや介護サービスを利用しているも症状が悪化して対応に悩んでいる人

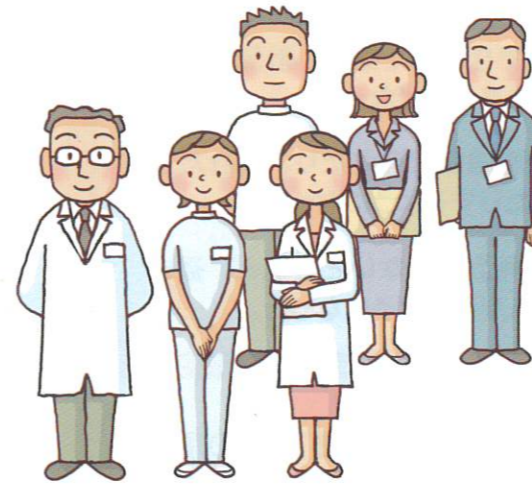
などが対象となります。



チーム員は どんな人たちのの？

医療、福祉、介護の専門家たちによって構成されています。

- 医師 ●保健師 ●看護師
- 作業療法士 ●歯科衛生士
- 精神保健福祉士 ●介護福祉士
- 社会福祉士
- 地域包括支援センター職員 など



どうして「早めの対応」が 必要なの？

認知症は、現在完治が難しい病気とされていますが、早期に発見して適切な対応をすれば、その人らしい充実した暮らしを続けることができるからです。

早期発見による3つのメリット

- メリット1 早期治療で改善も期待できる**
認知症の原因になる病気はさまざまですが、早期に発見し早期に治療をはじめることで、改善が期待できるものもあります。
- メリット2 進行を遅らせることができる**
認知症の症状が悪化する前に適切な治療やサポートを行うことによって、その進行のスピードを遅らせることができる場合があります。
- メリット3 事前にさまざまな準備ができる**
早期発見によって、症状が軽いうちに本人や家族が話し合い、今後の治療方針を決めたり、利用できる制度やサービスを調べたりする「認知症に向き合うための準備」を整えることができます。



相談から支援までの流れ

地域包括支援センター などに相談



初回家庭訪問

依頼を受けたチーム員2～3人で訪問します。
※その後も必要に応じて訪問



チーム員会議

適切な医療サービスや介護サービスを検討し、ケア方針を作成します。

- 専門医療機関の紹介
- 受診に向けた適切な方法
- 本人の状態に合った介護保険サービス

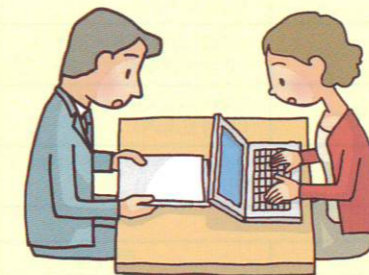
など



初期集中支援の実施



医療やケアマネジャー などへの引き継ぎ・支援



本人が受診を 拒むこともあります

「自分が認知症かもしれない」という不安はとても大きなものです。家族など周囲が受診をすすめても、本人が頑なに拒むこともあります。そんなときは、まずは家族だけで地域包括支援センターなどに相談し、アドバイスを受けることもできます。

